

# プラズマ中の波動 (外部磁場の無い場合)

平成 23 年 2 月 27 日

マックスウェル方程式 マックスウェル方程式は、

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \quad (1)$$

$$\nabla \times \mathbf{B} = \sum_s \mu_0 \mathbf{J}_s + \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} \quad (2)$$

である。ここで、 $\mathbf{E}$ 、 $\mathbf{B}$ 、 $\mathbf{J}_s$ 、 $t$ 、 $\rho_s$ 、 $\epsilon_0$ 、 $\mu_0$  は、それぞれ電磁波の電場ベクトル、磁束密度ベクトル、荷電粒子  $s$  による電流、荷電粒子  $s$  の電荷密度、時間、真空中の誘電率、真空中の透磁率であり、 $\sum_s$  は、全荷電粒子について電流の和を取ることを意味している。

(1) 式の両辺の回転を取ると、

$$\nabla \times (\nabla \times \mathbf{E}) = -\frac{\partial (\nabla \times \mathbf{B})}{\partial t}$$

(2) 式を代入すると、

$$\nabla \times (\nabla \times \mathbf{E}) = -\mu_0 \sum_s \frac{\partial \mathbf{J}_s}{\partial t} - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2}$$

さらに、ベクトル公式  $\nabla \times (\nabla \times \mathbf{A}) = \nabla(\nabla \cdot \mathbf{A}) - \nabla^2 \mathbf{A}$  より、波動方程式、

$$\nabla^2 \mathbf{E} - \nabla(\nabla \cdot \mathbf{E}) - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2} - \mu_0 \sum_s \frac{\partial \mathbf{J}_s}{\partial t} = 0 \quad (3)$$

が得られる。

電場の表現 ここでは、電磁波が角周波数  $\omega$ 、 $z$  方向のみに伝播する波数  $k$  の平面波であるとし (ただし、 $\omega$ 、 $k$  は実数である) 電場ベクトルの  $x$  成分、 $y$  成分、 $z$  成分を、

$$\mathbf{E} = \begin{pmatrix} E_x \\ E_y \\ E_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ex}) \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ey}) \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ez}) \end{pmatrix} \quad (4)$$

とする。ただし、今後の計算ため、平面波が伝播するにつれ振幅が変化するとし、その変化を表す  $\exp(\alpha z)$  なる因子を含めた (ただし、 $\alpha$  は実数である)。なお、 $\theta_{E_x}, \theta_{E_y}, \theta_{E_z}$  は各成分の初期位相である。

さらに、この電場ベクトルを、以下のように複素数を用いて表す。

$$\begin{aligned} \mathbf{E} &= \mathbf{E}_+ + \mathbf{E}_- = \begin{pmatrix} E_{+x} \\ E_{+y} \\ E_{+z} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} E_{-x} \\ E_{-y} \\ E_{-z} \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \frac{\exp\{i(kz - \omega t + \theta_{E_x})\}}{2} \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \frac{\exp\{i(kz - \omega t + \theta_{E_y})\}}{2} \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \frac{\exp\{i(kz - \omega t + \theta_{E_z})\}}{2} \end{pmatrix} \\ &+ \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \frac{\exp\{-i(kz - \omega t + \theta_{E_x})\}}{2} \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \frac{\exp\{-i(kz - \omega t + \theta_{E_y})\}}{2} \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \frac{\exp\{-i(kz - \omega t + \theta_{E_z})\}}{2} \end{pmatrix} \end{aligned}$$

ここで、

$$k - i\alpha = k_+$$

$$k + i\alpha = k_-$$

とおけば、

$$\begin{aligned} \mathbf{E} &= \mathbf{E}_+ + \mathbf{E}_- \\ &= \begin{pmatrix} E_{x0} \frac{\exp\{i(k_+ z - \omega t + \theta_{E_x})\}}{2} \\ E_{y0} \frac{\exp\{i(k_+ z - \omega t + \theta_{E_y})\}}{2} \\ E_{z0} \frac{\exp\{i(k_+ z - \omega t + \theta_{E_z})\}}{2} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} E_{x0} \frac{\exp\{-i(k_- z - \omega t + \theta_{E_x})\}}{2} \\ E_{y0} \frac{\exp\{-i(k_- z - \omega t + \theta_{E_y})\}}{2} \\ E_{z0} \frac{\exp\{-i(k_- z - \omega t + \theta_{E_z})\}}{2} \end{pmatrix} \end{aligned}$$

である。

電流密度を電場で表す ここで、(3) 式における電流密度ベクトル  $\mathbf{J}_s$  の時間微分  $\partial \mathbf{J}_s / \partial t$  を  $\mathbf{E}$  で表すことを考える。荷電粒子  $s$  の質量を  $m_s$ 、電荷を  $q_s$ 、速度ベクトルを  $\mathbf{v}_s$  とすると、

$$\mathbf{J}_s = q_s \sum_V \mathbf{v}_s$$

である。ここで、 $\sum_V$  は、単位体積あたりに含まれる荷電粒子  $s$  の和を取ることを表している。

ここでは、冷たいプラズマ、すなわち、荷電粒子が熱運動していない状態を扱っている。この場合、全荷電粒子揃って同一の運動をしている。そのため、

$$\sum_V \mathbf{v}_s = \mathbf{v}_s \sum_V 1 = \mathbf{v}_s n_s$$

の関係が成り立つ。 $n_s$  は、荷電粒子  $s$  の体積密度（単位体積あたり荷電粒子  $s$  の個数）のである。したがって、

$$\mathbf{J}_s = q_s n_s \mathbf{v}_s$$

が成り立つ。時間で偏微分して、

$$\frac{\partial \mathbf{J}_s}{\partial t} = \frac{\partial (q_s n_s \mathbf{v}_s)}{\partial t}$$

。ここで、 $n_s$ 、 $\mathbf{v}_s$  を、時間一定の 0 次の成分  $n_{s0}$ 、 $\mathbf{v}_{s0}$  と、波動により微小振動する 1 次の成分  $n_{s1}$ 、 $\mathbf{v}_{s1}$  に分ける。

$$n_s = n_{s0} + n_{s1}$$

$$\mathbf{v}_s = \mathbf{v}_{s0} + \mathbf{v}_{s1}$$

冷たいプラズマを考えているから  $\mathbf{v}_{s0} = 0$  であることに注意すると、

$$\frac{\partial \mathbf{J}_s}{\partial t} = q_s \frac{\partial (n_{s0} \mathbf{v}_{s1} + n_{s1} \mathbf{v}_{s1})}{\partial t}$$

ここでは、微小振動を考えているため、 $|n_{s0}| \gg |n_{s1}|$  である。したがって、

$$\frac{\partial \mathbf{J}_s}{\partial t} = q_s \frac{\partial n_{s0} \mathbf{v}_{s1}}{\partial t} = q_s n_{s0} \frac{d\mathbf{v}_{s1}}{dt} \quad (5)$$

と近似できる。したがって、

一方、質量  $m_s$ 、電荷  $q_s$  の荷電粒子  $s$  の運動方程式は、

$$m_s \frac{d\mathbf{v}_s}{dt} = q_s \mathbf{E}$$

である。これを、(5) 式へ代入して、

$$\frac{\partial \mathbf{J}_s}{\partial t} = \frac{q_s^2 n_{s0}}{m_s} \mathbf{E}$$

分散式を求める さらに、これを、(3) 式へ代入して、

$$\nabla^2 \mathbf{E} - \nabla(\nabla \cdot \mathbf{E}) - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2} - \mu_0 \sum_s \frac{q_s^2 n_{s0}}{m_s} \mathbf{E} = 0$$

この式に、 $\mathbf{E} = \mathbf{E}_+ + \mathbf{E}_-$  を代入する。

$$\begin{aligned}
& \nabla^2 \mathbf{E} - \nabla(\nabla \cdot \mathbf{E}) - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2} - \mu_0 \sum_s \frac{q_s^2 n_{s0}}{m_s} \mathbf{E} \\
&= \nabla^2 \mathbf{E}_+ - \nabla(\nabla \cdot \mathbf{E}_+) - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{E}_+}{\partial t^2} - \mu_0 \sum_s \frac{q_s^2 n_{s0}}{m_s} \mathbf{E}_+ \\
&+ \nabla^2 \mathbf{E}_- - \nabla(\nabla \cdot \mathbf{E}_-) - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{E}_-}{\partial t^2} - \mu_0 \sum_s \frac{q_s^2 n_{s0}}{m_s} \mathbf{E}_- \\
&= -k_+^2 \mathbf{E}_+ + k_+^2 E_{+z} \mathbf{e}_z + \epsilon_0 \mu_0 \omega^2 \mathbf{E}_+ - \epsilon_0 \mu_0 \sum_s \omega_{ps}^2 \mathbf{E}_+ \\
&= -k_-^2 \mathbf{E}_- + k_-^2 E_{-z} \mathbf{e}_z + \epsilon_0 \mu_0 \omega^2 \mathbf{E}_- - \epsilon_0 \mu_0 \sum_s \omega_{ps}^2 \mathbf{E}_- \\
&= \mathbf{0}
\end{aligned}$$

ここで、

$$\omega_{ps}^2 = \frac{q_s^2 n_{s0}}{\epsilon_0 m_s}$$

であり、 $\omega_{ps}$  は、荷電粒子  $s$  のプラズマ角周波数である。これを、 $x$ 、 $y$ 、 $z$  成分ごとに行列形式で表示すると、

$$\begin{pmatrix} A_+ & 0 & 0 \\ 0 & A_+ & 0 \\ 0 & 0 & B \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_{+x} \\ E_{+y} \\ E_{+z} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} A_- & 0 & 0 \\ 0 & A_- & 0 \\ 0 & 0 & B \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_{-x} \\ E_{-y} \\ E_{-z} \end{pmatrix} = \mathbf{0} \quad (6)$$

ただし、

$$\begin{cases} A_+ = -k_+^2 + \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right) \\ A_- = -k_-^2 + \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right) \\ B = \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right) \end{cases}$$

である。 $\mathbf{E}_+$ 、 $\mathbf{E}_-$  がゼロベクトルで無いためには、

$$\begin{vmatrix} A_+ & 0 & 0 \\ 0 & A_+ & 0 \\ 0 & 0 & B \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} A_- & 0 & 0 \\ 0 & A_- & 0 \\ 0 & 0 & B \end{vmatrix} = 0$$

であればよい。すなわち、

$$A_+^2 B = A_-^2 B = 0$$

この方程式の解は、

$$A_+ = A_- = 0$$

または、

$$B = 0$$

である。

解1：プラズマ中の波動 解が前者の場合、 $\alpha$ 、 $k$  が実数であることに注意して、

$$\begin{cases} \alpha k = 0 \\ (\alpha^2 - k^2) + \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right) = 0 \end{cases}$$

第1式より、 $\alpha = 0$ 、または、 $k = 0$  である。 $\alpha = 0$  の場合、第2式は、

$$k^2 = \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right)$$

ただし、 $k$  は実数であるので、

$$\omega^2 \geq \sum_s \omega_{ps}^2$$

である必要がある。 $k = 0$  の場合、第2式は、

$$\alpha^2 = -\epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right)$$

ただし、 $k$  は実数であるので、

$$\omega^2 < \sum_s \omega_{ps}^2$$

である必要がある。

以上まとめると、 $\omega^2 \geq \sum_s \omega_{ps}^2$  の場合は、

$$\begin{cases} k^2 = \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right) \\ \alpha^2 = 0 \end{cases}$$

$\omega^2 < \sum_s \omega_{ps}^2$  の場合は、

$$\begin{cases} k^2 = 0 \\ \alpha^2 = \epsilon_0 \mu_0 \left( \sum_s \omega_{ps}^2 - \omega^2 \right) \end{cases}$$

ところで、このとき (6) 式は、

$$\begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & B \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_{+x} \\ E_{+y} \\ E_{+z} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & B \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_{-x} \\ E_{-y} \\ E_{-z} \end{pmatrix} = 0$$

であり、この条件を満たすためには、 $E_{+z} = 0$ 、 $E_{-z} = 0$  でないといけない。すなわち、横波であることを意味している。

解2：プラズマ振動 一方、 $B = 0$ のときは、

$$\omega^2 = \sum_s \omega_{ps}^2$$

であり、これをプラズマ振動という。このとき (6) 式は、

$$\begin{pmatrix} A_+ & 0 & 0 \\ 0 & A_+ & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_{+x} \\ E_{+y} \\ E_{+z} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} A_- & 0 & 0 \\ 0 & A_- & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_{-x} \\ E_{-y} \\ E_{-z} \end{pmatrix} = \mathbf{0}$$

これを満足するためには、 $E_{+x} = E_{-x} = E_{+y} = E_{-y} = 0$ でないといけない。すなわち、縦波を意味している。

結論 以上、まとめると、

プラズマ中の波動  $z$  方向に伝播する (外部磁場が無いときの) プラズマ中の波動は、 $\omega^2 \geq \sum_s \omega_{ps}^2$  のとき、

$$\mathbf{E} = \begin{pmatrix} E_x \\ E_y \\ E_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} E_{x0} \cos(kz - \omega t + \theta_{Ex}) \\ E_{y0} \cos(kz - \omega t + \theta_{Ey}) \\ 0 \end{pmatrix}$$

ただし、

$$k^2 = \epsilon_0 \mu_0 \left( \omega^2 - \sum_s \omega_{ps}^2 \right)$$

$\omega^2 < \sum_s \omega_{ps}^2$  のとき、

$$\mathbf{E} = \begin{pmatrix} E_x \\ E_y \\ E_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \cos(-\omega t + \theta_{Ex}) \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \cos(-\omega t + \theta_{Ey}) \\ 0 \end{pmatrix}$$

ただし、

$$\alpha^2 = \epsilon_0 \mu_0 \left( \sum_s \omega_{ps}^2 - \omega^2 \right)$$

プラズマ振動 また、プラズマ振動として、 $k$ 、 $\alpha$  を任意の実数として、

$$\mathbf{E} = \begin{pmatrix} E_x \\ E_y \\ E_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ez}) \end{pmatrix}$$

ただし、

$$\omega^2 = \sum_s \omega_{ps}^2$$

速度ベクトル・位置ベクトル・電流密度ベクトル ちなみに、荷電粒子 $s$ の速度ベクトル、位置ベクトル、電流密度ベクトルは以下のとおりとなる。荷電粒子の速度ベクトルは、

$$\begin{aligned}
 \mathbf{v}_s &= \int \frac{q_s \mathbf{E}}{m_s} dt \\
 &= \int \frac{q_s \mathbf{E}_+}{m_s} dt + \int \frac{q_s \mathbf{E}_-}{m_s} dt \\
 &= \frac{1}{-i\omega} \frac{q_s \mathbf{E}_+}{m_s} + \frac{1}{i\omega} \frac{q_s \mathbf{E}_-}{m_s} \\
 &= \frac{q_s \mathbf{E}_+}{-im_s \omega} + \frac{q_s \mathbf{E}_-}{im_s \omega} \\
 &= \frac{q_s}{m_s \omega} \frac{\mathbf{E}_+}{-i} + \frac{\mathbf{E}_-}{i} \\
 &= \frac{q_s}{m_s \omega} i(\mathbf{E}_+ - \mathbf{E}_-) \\
 &= -\frac{q_s}{m_s \omega} \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \sin(kz - \omega t + \theta_{Ex}) \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \sin(kz - \omega t + \theta_{Ey}) \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \sin(kz - \omega t + \theta_{Ez}) \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

荷電粒子 $s$ の位置ベクトルは、

$$\begin{aligned}
 \mathbf{r}_s &= \int \int \frac{q_s \mathbf{E}}{m_s} dt dt \\
 &= \int \int \frac{q_s \mathbf{E}_+}{m_s} dt dt + \int \int \frac{q_s \mathbf{E}_-}{m_s} dt dt \\
 &= \frac{1}{\omega^2} \frac{q_s \mathbf{E}_+}{m_s} - \frac{1}{\omega^2} \frac{q_s \mathbf{E}_-}{m_s} \\
 &= \frac{q_s \mathbf{E}_+}{m_s \omega^2} - \frac{q_s \mathbf{E}_-}{m_s \omega^2} \\
 &= -\frac{q_s}{m_s \omega^2} (\mathbf{E}_+ + \mathbf{E}_-) \\
 &= -\frac{q_s}{m_s \omega^2} \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ex}) \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ey}) \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \cos(kz - \omega t + \theta_{Ez}) \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

同様に、荷電粒子 $s$ による電流密度ベクトル $\mathbf{J}_s$ は、

$$\begin{aligned}
 \mathbf{J}_s &= \frac{q_s^2 n_s}{m_s \omega} i(\mathbf{E}_+ - \mathbf{E}_-) \\
 &= -\frac{q_s^2 n_s}{m_s \omega} \begin{pmatrix} E_{x0} \exp(\alpha z) \sin(kz - \omega t + \theta_{Ex}) \\ E_{y0} \exp(\alpha z) \sin(kz - \omega t + \theta_{Ey}) \\ E_{z0} \exp(\alpha z) \sin(kz - \omega t + \theta_{Ez}) \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$